

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同研究プロジェクト「宣教に伴う言語学（第2期）」2011年度第1回研究会

日時：2011年5月31日（火）9:30-16:30

会場：本郷サテライト7階会議室

出席者：岡美穂子（AA研共同研究員・東京大学史料編纂所）、折井善果（AA研共同研究員・慶應義塾大学法学部）、川口敦子（AA研共同研究員・三重大学人文学部）、岸本恵実（AA研共同研究員・京都府立大学文学部）、白井純（AA研共同研究員・信州大学人文学部）、鈴木広光（奈良女子大学・研究協力者）、豊島正之（AA研所員）

内容：

1. 今年度研究打ち合わせ

科研費（基盤研究B）の新規採択を受けて、今後の研究方針を打ち合わせた。

2. 「ひですの経」新出断簡研究

2-1 豊島正之（AA研所員）「ひですの経」使用活字のキリシタン文献での位置

「ひですの経」の断簡新出の経緯を説明した後、他のキリシタン版を含めた漢字活字使用状況総覧の見本を示し、「ひですの経」複製本に附属する釈文では、全での漢字活字に対して他キリシタン版での使用状況要約を一々示す予定である事を述べ、その方法を示した。

2-2 折井善果（AA研共同研究員，慶應義塾大学）「ひですの経」の新出断簡と本文との比較

「ひですの経」の用いる譬喩等の他キリシタン版からの被影響関係を論じた後、新出断簡と「ひですの経」ホートン本との本文の異動が、必ずしも翻訳底本の差とは考え難い事を示した。

2-3 白井純（AA研共同研究員，信州大学）「ひですの経」の新出断簡の版式と活字印刷技法

「ひですの経」新出断簡と「ひですの経」ホートン本とが、一丁の内部では本文が大きく異動するものの、前丁の終わり・次丁の始まりに就ては全く変更がが無い点に着目し、一丁を跨がない範囲での差し替えであるという新見を掲げ、日本版本での並行例を示した。又、「ひですの経」の用語法が、他のキリシタン版と異なる点を列挙し、特異な翻訳に注意を喚起した。

3. 「ラポ日対訳辞書」（1595，天草）研究

3-1 豊島正之（AA研所員）ラポ日対訳辞書データベースの運用に関して

プロジェクトのDBページ <http://joao-roiz.jp/LGR/> の更新と、Bluteau Vocabulario portuguez e latino ファイルの追加完了を報告し、今後の異形態統合の課題等を述べた。

3-2 岸本恵実（AA 研共同研究員，京都府立大学）羅葡日辞書の日本語訳の解明に向けて

主として、他に用例の見えない日本語語彙・用法を、底本の *Calepinus*、及びそれらの典拠書物（*Plinius*、*Cicero* 等）へ注意を払いつつ述べた。

（文責：豊島正之）